

吉田清隆議員



○公共交通機関の運転手確保について  
○福井国体、全国障スポのPR動画について

そのほかの質問

- ・東京オリンピック合宿誘致とホストタウンについて
- ・消防団の消防車運転について

一般質問

**問** 全国のバス会社では、路線バスの最終便の繰り上げに踏み切ったり、長時間勤務が難しい高齢運転手が増えた路線の日曜・祝日便を運休しているところが出てきている。交通経済学専門の大学教授は「公共交通を事業者単位で担うのは難しい時期に来ている。住民がどんな移動を望むのか把握し、国や自治体も一緒に交通の在り方を考える必要がある」と指摘している。数年先を見通した公共交通機関の運転手確保について、現状の運転手の確保状況および今後事業者と自治体が考える、交通の在り方についてを伺う。

**答** 公共交通機関の運転手確保の状況は、今年の4月に運転手不足が原因で、京福バス勝山大野線の坂東島、福井勝山総合病院間が廃止になり、コミュニティバスが代わって運行することになったことから、運転手の確保が困難であり、公共交通の維持の障害となっていると認識している。今後は、行政がどのようなサポートを行えるのか調査研究を行いたいと考えている。

**問** 先日「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会を盛り上げようと多くの市民の方々が参加された「はびねずダンス」の動画が公開されたが、北部中学校が2015年10月に作成したPR動画は勝山市の多くの観光地で躍動感あふれる踊りを披露しているのに、勝山市が作成した動画と併せて公式PR動画として使えないか。

**答** 勝山北部中学校が製作した動画は、勝山の観光地をバックに、生徒たちがはびねずダンスを踊るといふものであり、勝山のPR、国体・障スポのPRにふさわしく、また、中学生の勝山への愛着が生き生きと伝わる出来映えとなっている。勝山北部中学校の許可を取り、市が製作したPR動画とともに今後使用していきたいと考えている。今後は、勝山北部中学校・県実行委員会・勝山市実行委員会のPR動画を1つにして、披露していきたい。

下牧一郎議員



○デマンド型交通について

そのほかの質問

- ・移住定住施策について

一般質問

**問** 県では、昨年初めて、県内全集落を対象に集落活動の状況、将来展望などについて調査を行い、平成29年度「福井県集落実態調査報告書」として公表した。この報告書によると、集落の今後について、10年後には「衰退」していくと思うと回答した集落が57%に上り、地域別では、「衰退」は山間地が高く、世帯別においても、小規模集落が高くなっている。特に、極小規模集落の85%は「衰退」していくと回答している。また、集落内で将来について「話し合う予定は無い」が54%となっており、全ての地域、世帯数区分において割合が高くなっている。特に都市的地域、大規模集落で高くなっている。「高齢者の移動手段」という項目では、地区を維持するために路線バスやコミュニティバス等の公共交通機関は絶対に必要。だが、高齢者はバス停まで歩くのが大変。乗合タクシーのように家の前まで来てくれるのが一番いい。また、高齢者の移動手段については、自動車（本人が運転）が最も高く全体

の67%を占めている。そこで、①デマンドバスの利用状況と課題、②当市においてデマンド型タクシー導入を再考するつもりはないか、以上2点について市の見解を伺う。

**答** ①平成27年10月から区域デマンド方式を取り入れた新しい形で運行を開始し、予約運行区域内は、利用者の要望により区域内にバス停を新設すること、さらに利用者のニーズに沿った運行を行える方式であり、現在設置しているバス停は218箇所となった。しかしながら、利用者数が減少している路線もある。現状の分析、潜在ニーズの掘り起しを行いながら、利用促進に努めていく。

②公共交通政策の一つの方策として、可能性と必要性について研究を重ねるとともに、ドライバー不足や運転ミスによる事故対策の切り札として期待される自動運転技術の確立に注視しつつ、勝山市にとってふさわしいよりよい交通体系の構築を目指していく。